

未知の感染症出現—— 医療現場の今と私たちがすべきこと。

強い使命感を持って

府川 昨年は新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)というこれまで経験したことがない事態が発生しました。

様々な情報が飛び交う昨今、行政として、町民の皆様には正しい情報をお伝えする義務があると考え、コロナ最前線である貴院にお話を伺う機会を頂戴しました。お忙しい中、ありがとうございます。

牧田 当院としても、コロナのことや医療現場の状況を地域の皆様に直接お伝えする機会をいただき、感謝しています。

府川 さて、貴院は、早い段階からコロナ患者を受け入れていました。当時の医療現場が、どのような状況だったか教えてください。

牧田 当院が初めて受け入れたコロナ患者は、2月初旬に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客でした。従来から、当院は第二種感染症の指定病院のため、新たな感染症の発生時に対応する役割がありました。

しかし、コロナが未知の感染症で治療法がないことや、海外で大勢の方が死亡されている

こともあり、当時の医療現場は、非常に緊張が高まりました。直接患者を診るスタッフは相当な恐怖があったと思いますが、全員が強い使命感を持って立ち向かってくれました。

府川 心身ともに厳しい環境の中、立ち向かってくださった医療従事者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

その後、4月に貴院はコロナ拡大による医療崩壊を防ぐための「神奈川モデル」において、中等症患者を重点的に受け入れる「重点医療機関」に指定されましたね。

牧田 はい。しかし、感染症用の完全隔離された病棟だけではベッドが足りず、一般病棟での対応が必須でした。そのため、救急を含め一般診療を一部停止せざるを得ませんでした。地域の皆様に多大なご負担をおかけしました。申し訳ありませんでした。

府川 地域医療を支えている貴院にとっては、苦渋の決断だったと思います。

牧田 陰圧装置の設置等の感染対策を万全にしたうえで、約一か月後に通常診療を再開しましたが、11月以降の第三波で患者が急増しており、収容するベッドが次第にひっ迫してきています。現在も非常に苦労しています。

牧田 コロナは、ほぼ飛沫感染と言われています。また、直接飛沫を浴びなくても、物に付いた飛沫を触って、手からウイルスが目や口に入り感染してしまいます。そのため、飛沫を防ぐことが肝心です。黒岩知事が発表された「MASK(※)」を守ることがポイントです。

ある論文では、感染者の半数以上が、無症状者から感染していると言われています。「元気な方でも、感染者かもしれない」という意識を常に持つ必要があります。

府川 基本が大切なんです。また、お話にありました無症状患者は、自然に治っているということですか。



▲一般病棟にも陰圧装置を設置。気圧を下げることで、部屋内部のウイルスを含んだ空気が外部に漏れないようになる。
▶個室化した救急外来ブース。発熱患者は原則として隔離して対応している。
※写真提供:神奈川県立足柄上病院



※MASKとは…?

感染防止対策に必要なキーワードの頭文字を取ったもの。

- M…適切なマスクの着用
- A…アルコール等で消毒
- S…アクリル板等でしゃべり
- K…きよりとかんき

「MASK」を再確認

府川 現在、コロナ感染者数増加に加えて、インフルエンザの流行期でもあります。今後、注意すべき点を教えてください。



神奈川県立足柄上病院院長

まさ た ひろ き
牧田 浩行

1990年国立滋賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部整形外科に入局し、同大学の付属病院、平塚共済病院、住友重機健康保険組合浦賀病院(現・よこすか浦賀病院)などを経て、2012年に神奈川県立足柄上病院整形外科部長に就任。副院長を経て、2017年4月から現職。



開成町長

ふ かわ ゆう いち
府川 裕一